

**発達：その他**

43-060 10歳児の知能を推定するのに最も有用な検査はどれか。

1. 改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査(DDST) .. 対象 0~6歳
2. 内田・クレペリン精神作業検査 .. 知能検査ではない
3. WAIS-III .. 対象 16~89歳
- ④ WISC-III .. 対象 5歳~16歳11か月
5. WPPSI .. 対象 3歳10か月~7歳11か月

46-P-091 脳性麻痺で誤っているのはどれか。

- ① 痙直型四肢麻痺では出生時から筋緊張が高い。は低い。
2. 痙直型両麻痺では上肢よりも下肢の障害が強い。
3. アテトーゼ型では緊張性頸反射の影響を受ける。
4. 精神的緊張でアテトーゼ型の不随意運動は増強する。
5. アテトーゼ型四肢麻痺では下肢よりも上肢の障害が強い。

48-A-83 脳性麻痺で正しいのはどれか。

1. アテトーゼ型では下肢より上肢の支持性が良い。
- ② アテトーゼ型では初期は低緊張である。
3. 痙直型では出生直後から筋緊張が充進する。は正常~低下。
4. 痙直型両麻痺では下肢より上肢の麻痺が重度である。
5. 痙直型片麻痺では上肢より下肢の麻痺が重度である。

49-A-093 脳性麻痺の周産期における危険因子として可能性が低いのはどれか。

1. 緊急帝王切開による出生
2. 脳室周囲白質軟化症
- ③ 低カリウム血症 危険因子となることはほとんどない。
4. 新生児仮死
5. 低血糖

49-P-090 GMFCS(gross motorfunction classification system)extended and revised について正しいのはどれか。 正解なし

- ① 6つのレベルがある。
2. 環境要因を除外している。は、6歳以上では移動手段に影響するものとして重複されている。
- ③ 4つの年齢帯に分けて記載がある。0歳~18歳の誕生日の前日までを5つに区分。
4. 脳性麻痺の重症度の判別に使われる。粗大運動能力
5. 脳性麻痺児を臥位と立位の能力から分類する。坐位能力、移動能力も含まれる。